

# 「ふるさと納税」制度について

佐久間 儀郎

【質問】どの自治体も財政状況は厳しく大幅な増収は期待できない。従って、わずかも自主財源を確保すべく、ふるさと納税制度を活用する意義は大きい。自治体間には温度差がある。そこで、本市の運用実態と取組み方において

①寄附人数と金額②寄附金の使い道③寄附目的の拡張④寄附条例制定による基金積み立て、運用の考え⑤必要に応じた特産品の贈呈内容の充実⑥魅力的なまちづくり、施策が重要になるため、内外にPR発信する等、市長の制度に対する姿勢・所信を伺う。  
【その他の質問】  
○地域活動に対する財政支援のあり方について

【答弁】【市長】①平成20年度から現在までに48件76万9千円の寄附があった。②使途を定めた指定寄附ではなく、浄財を寄附していただいた皆様の白石への熱い思いにこたえるべく各種事業の一般財源として活用している。

④基金条例の制定については、県北地域には多いようだが、先ほどの件数と金額を考えると、本市ではそこまでの考えはない。⑤1万円以上寄附をいただいた方には、白石藩倶楽部の特産品3千円の商品をお送りしている。平成21年度は戦国BASARA小十郎コースの特産品セットをお送りした。③⑥私は魅力

あるまちづくりが重要だと思っている。「白石市はまちづくり頑張っているな」とも、多くの方に共感いただいて、「寄附いただいたような各種事業を実施していく。本市は、交通・歴史・文化・教育・自然・産業資源など非常に恵まれた地域資源を有している。資源を新しい視点で結び、生かすことで、本物志向で独自性のある、魅力的な白石のイメージを確立していきたい。策定中の第5次総合計画では、「人、暮らし、環境が生きる交通拠点都市づくり」として推進し、広くPRにも努めていく。



白石温麺

## 討論

◎第49号議案 平成21年度白石市各会計歳入歳出決算の認定について

### 反対

本決算を全体的にみれば、歳入では、前年度比較で、約5億9千万円ほどの増額がみられるが、市税等の減少に対し、地方交付税・地方特例交付金等の増により前年度より増加している。実質単年度収支は平成19年度より3年連続で赤字であり、財政のやりくりは大変だったと見受けられる。財政構造の弾力性を示す経常収支比率は悪化の一途だったものが今期良好化したとはいえ、手放しで喜べると思えず、今後の推移を見守りたい。

歳入で見れば、自主財源である市税等の収入が良くなるよう、地域経済に貢献できるような、独自施策をすることではないか。言い換えれば、歳入をあげるための歳出も必要である。

国の緊急対策で、雇用創出事業が実施されたが、その他の部分ではまだ白石市独自の施策は実現しない。地域経済の冷え込みを緩和していくという、どのようなサポートが必要かと考えられた『心』が伝わる施策がとほしい。

よって本案に反対である。

### 賛成

平成21年度を振り返ってみると、前年秋のリーマンショックによる世界的不況の影響を受け、我が国では、

企業経営にとっても、家計にとっても、これまでになく厳しい1年であった。「この影響は、現在も円高として我が国の経済に尾を引いている。」

これらの影響から、本市では、税収の減少などによる歳入の落ち込みとなった。また、市民の安全安心の要である刈田総合病院への運営費補助金の支出により、その財政運営への影響が危惧されたところである。

しかし、「基金の運用」や「地方交付税や臨時財政対策債の増額」により、市民サービスへの低下を招かない財政運営がなされ、かつ、基金の戻し入れ・積み立てにより、次年度の健全財政につなげたところである。よって本案に賛成である。